

授業 コード	10412	科目名	自然史		担当者		吉岡 英二			
		副題	生物の多様性と動物を分類する構造		開講期	後期	単位数	2	DP対応	1,K1
【授業概要】										
動物がどのように整理・分類されているかを理解し、その中でヒトがどのような特徴を持つかを、生物学的な観点から議論する。										
【到達目標】										
生物界の階層性を理解し、門・綱・目・科・属・種の大きさを説明できる。 さらに、日常で語られる多くの生物名に対応する分類学上の位置を説明できる。										
【授業方法・計画】										
序論および総論で、歴史的な位置づけと生態系からの位置づけ、分類学の構造を説明したうえで、各論として各分類群の解説をおこなう。										
第1回	序論：自然史 (natural history) の歴史的な位置づけと現代的意義、総論：生態系の定義・多様性の意義									
第2回	個体群/群集/生態系の階層性									
第3回	生物全体の多様性と階層性									
第4回	生物を分類する論理と系統分類学									
第5回	学名 (scientific name) 歴史的意義およびその表記法									
第6回	生物を5つの界に分ける									
第7回	中生動物・海綿動物・刺胞動物									
第8回	前口動物(1)：扁形動物・袋形動物・環形動物・軟体動物									
第9回	前口動物(2)：節足動物									
第10回	後口動物：棘皮動物・原索動物									
第11回	脊椎動物各綱の分類と進化系列 {無顎・板皮・棘魚・軟骨魚・硬骨魚・両生・爬虫・鳥・哺乳}									
第12回	哺乳綱の各目の分類と生態									
第13回	霊長目の位置づけと進化系列									
第14回	ヒト亜科の進化と現生人類の分類学的な位置づけ									
【準備学習・復習】										
準備学習：次回に扱う動物群(動物門など)の名称を確認し、インターネット検索などでその外形と生息場所(海・淡水・陸上の別)などの概要について理解しておくこと(100分)。 復習：授業で扱った動物が分類上どこに位置づけられるのか、前回は扱った動物群との関連性とあわせて確認しておくこと(100分)。										
【課題に対するフィードバックの方法】										
課題レポート提出時に適宜書き換えを求めます。合格水準に達しないものについては不受理とします。										
【受講上のアドバイスおよび注意事項】										
身近な多くの生き物だけでなく、知らない・見たことのない生き物に対しても興味を持ってください。 とくに、知らない生き物があった場合には、インターネットなどで調べておくこと。										
成績評価方法	1) 毎回、授業のさいごに短答式の問題を課す(25%)。 2) 階層的な分類構造と命名法について理解されているか、各動物門について、その基本体制・生活史・生態などが理解されているかを、期末のレポートで評価する(75%)。									
教科書	資料・図版などを配付する。									
参考書										
CB0159(1年生) CC1114(2・3年生)		授業に関連する実務経験				なし				